

（件名）日本産水産物輸入停止後の上海の状況について

8月24日、中国政府が日本からの水産物の輸入停止を発表して以来、様々な影響が出始めています。今回は、上海で生活している中で感じる、貿易や観光面での影響（8月時点）について、ご報告します。

■ 貿易（物流）

A L P S 処理水放出前の7月14日から、日本の水産品に対する放射性物質検査が強化され、これまで検査結果が出る前に通関を通過していたものが、結果が出るまで数日間、港（空港）に留め置かれることとなり、鮮魚の輸入はこの時からストップしました。

そして、8月24日に中国政府が日本からの水産品禁輸を発表したため、全ての水産品の輸入が止まりました。

これまで、中国国内では日本食がブームとなっており、日本料理店では中国人・日本人の客で混雑していました。日本料理店の経営者によると、コロナ明けから来客数は伸びていたところに、処理水に関する報道があり、中国人客の減少、来店しても魚介類は注文しなくなったとの話が聞かれました。

一方、日本からの輸入食品を多く扱うスーパーマーケットでは、それまでと変わらない混雑で、陳列されている商品に大きな変化はありません。禁輸前に冷凍輸入されたと思われる、かまぼこや北海道産イクラなどが販売されていました。（8月末時点）

■ 観光

8月10日に日本への団体旅行ビザが解禁され、訪日観光客の増加が期待されました。JNTO（日本政府観光局）上海事務所によると、実際には航空便の再開が遅れているなどの事情から、団体旅行商品はコロナ前と比較して、3割ほど高い値段で販売されており、期待されたほどの予約は入っていなかったとのこと。ただし、中国の大型連休である国慶節（9月29日～10月6日）の団体旅行について、キャンセルが出ているとの話を耳にしており、また、当初訪日旅行を予定していた人の中には予定を変更した人もいないかと話していました。

その他、中国の経済新聞「第一財形」では、「日本行きの航空券の検索数が、以前の1/3になった」との報道がありました。（※予約数ではなく、検索数）

様々な報道がなされていますが、当事務所にはこれまでと同様に、北海道旅行に関する問い合わせが寄せられており、中国の旧正月連休（2月）を見据えた計画をされている方が多いように感じています。

■ 所見

中国人は自分の行った場所や食べた物について、SNS上で発信するのが大好きで、これには自慢と、他人にもぜひ経験してほしいという2つの思いがあるようです。一方で、日本人と同様に、人の目を気にする面（メンツを重んじる）もあります。日本政府を批判する声が高い現状の中国では、せっかく日本旅行や日本料理店へ行っても、思い切り発信（自慢）できないこともあり、今は足が遠のいているのかも知れません。

しかし、北海道に関心を持ち、お問い合わせをしてくださる方々がいるのも事実ですので、現地の状況・温度感を注視しながら、北海道の魅力発信に努めていきたいと考えています。